

序

ろうあ者の皆さんが、行住座臥、齊しく熱望しておることは、一般常人の中に融け込みたいということである。

かれらはいふ。「われわれを一般社会から疎外しないで欲しい、このことが身体障害者福祉法の整備より以前の問題である」と、しかし現実には、そうしてまた将来も、この問題の解決は容易なことではない。その隘路は、改めて説明するまでもなく、かれらが音の世界から見はなされておるところにある。

かれらが一般社会人と交流するには筆談によるほかはないが、これはすこぶる面倒なことで、いきおい、かれらは集団的に一般社会から疎外して行く結果となる。現在ろう学校教育では専ら口話法を採用しておるが、学校を出て口話を活かせるものの率は極めて低い。私は教育者でも学者でもないのもむづかしい理くつはわからないが、ろう学校教育においては、^手文字を教え、言葉を覚えさせるためには口話法の方が効果的であるが、知能程度のやお劣るものに対しては、手まねによって^手文字を教え、言葉を教えるために逆用することも一つの教育方法であるときく要するに手まねはかれらの生活から切りはなせない絶対的なものと言える。本書を「手まねと言葉の槩」と題した所以もそこにある。

かれら^をは一般社会に融合させるためには一般社会人全体の協力にまたねばならない。即ち、一般の人たちに手まねをマスターしてもらうことが先決である。しかし既刊の手引書は、理解は出来ても必ずしも実用的

であるとはいえない。本書はこの点に鑑み、簡単に、わかり易く、覚えよい手引書として刊行した積りである。

しかしかれらの手まねにも標準的なものがない。謂わば「方言」とでもいふべきいろいろの手法があつて、共通性に欠けておる。そこで本書は福岡県内の各ろう学校の諸先生方のご協力を得て、ろうあ者の標準語としたい、と念じて発刊したものである。

私はろうあ者の福祉増進の立場から昨年来厚生省にも申し入れておるが、本書を基礎にして、近く全国共通の「手まね」を作ることを悲願としておる。各方面の理解あるご協力を期待してやまない。本書の刊行費は全額ライオンズ国際協会北九州西ライオンズクラブのご好意によるものであるが蔭の力としてご援助をいただいた同クラブの石川研一郎氏（石川鉄工所社長）の献身的善意を特筆すると共に、一年間に亘って、本書の著作を担当していただいた福岡県立小倉ろう学校の坂田前校長、藤井現校長、青木教頭、森教諭、清水、市吉、三浦、^坂坂井の各教諭の絶大なご努力と、尊い犠牲的精神に対して大きな感激をもって敬意を表する次第である。更に剣本文部大臣がわざわざ本書のために題字を寄せられ巻頭を飾っていただいたことは、本書の刊行を大きく意義づけるもので、衷心から感謝申し上げると同時にろうあ者福祉についての使命の重要さを改めて銘記し、発刊の言葉とする。

昭和42年10月

北九州市身体障害者福祉協会

会長 中野 湊